

さくら第464号

平成30年8月

## さくら

発行所 さくらそらばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7:TEL51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jpいまから  
ごころから  
あしたはあつに  
ならぬから  
みつと

## 『思い立ったが吉日(きちじつ)』

あんな事をしてみたかった。あの時に、思い切ってチャレンジしていたら今頃はうまい分うまくなっていたのに。今度チャンスがあったらトライしてみよう。などなど思い返すことがいくつもありました。なぜあの時に決断しなかったのだろうか。この次は必ずやってみよう。と後悔することもありました。

ちょっとしたことですが、県外へ出かけたさいに書店で手にした本を買うか否か迷う時があります。福井へ帰ればいつでも買いに行けると思っていたのに、その機会がなく、あの時に買ってあげばと残念なことがあります。

ところで、金沢大学フィルハーモニー管弦楽団第43回サマーコンサートが7月8日午後3時30分から、金沢駅前の石川県立音楽堂コンサートホールで開演されるという招待券を内田健太君からいただきました。

3人兄弟の長男である彼は幼稚園児から高校卒業後するまでほぼ毎日通塾しており、今は大学生となり金沢に住んでいます。競技大会にも県内外で多く出場し、神戸でのグランプリジャパン全国大会や、京都での全日本球算選手権大会へ合わせて4回出場。

今春のコンサートで彼がビオラを演奏する姿を目にした時の驚きはいまも記憶しています。藤島高校での新入生部活勧誘でわたされた楽器がビオラだったといひます。

坂井中学では3年間美術部で油絵を描いていたのが、高校生になったある日ある時から

ビオラを弾き始めたのです。何となく楽器にふれてみたいという気持ちが入部の動機だったといひます。思い立ったが吉日です。

コンサート会場は3階建てで約1200人収容です。パンフレットを見ているうちに定刻になり拍手のなかを団員が入場し各パートに分かれて着席。静まり返ると同時に男性指揮者が入場。大きな拍手が鳴りやむと大学3年生のその指揮者がタクトをふり演奏が始まります。

今回の演目の中には私がとくに好きなチェコの代表的作曲家ドボルザークの「新世界より」があり、楽しみでした。15分間の休憩をはさみ午後5時盛大な握手のなか演奏会は終了。

内田健太君は高校生の時に勧誘された時に、何となく楽しそうだ、おもしろそうだからと入部したのが縁で大学を卒業してもなんらかのかたちで楽器を離さないと思ひます。

ある、ささいなきっかけで思いがけない道へと進むこともあるので、どうしようかと迷った時は「思い立ったが吉日」とばかり、チャレンジしてみるのも楽しいものですよ。

さて、年齢を重ねていく中でやってみたくも思ったことができず今でも残念に思うことがいくつもあります。今更人に言うのも恥ずかしいし、かつこ悪い。自分にはできない事をその人は簡単にやってしまうと思ひます。

今度、チャンスがあればと思ひているだけでは何も進みません。私は小学生のころから泳ぎが苦手というよりほとんどダメでした。海水浴に行っても浅いところで時間を過ごすだけでした。クロールで25m泳ぎたいという思いがあり、そこで40歳の時「思い立ったが吉日」とばかり近くのショッピングセンター「アミ」のプールへ毎週3回、90分ずつ通ひ、見よう見まねで泳ぎ始めてちょうど1年目。クロールでプールを20往復ノンストップで1000mを30分で泳ぎ切りました。できるようになりたいと心に思うことはまずやってみることで。やりながら考え、考えながらやり続けることで目的をクリアします。思い立ったが吉日です。